

令和4年度第4回宗像市下水道事業運営審議会 議事録

日時：令和5年1月30日（月）

14：00～15：30

場所：宗像終末処理場

審議会委員

出欠	名前								
○	久場委員	○	寺嶋委員	○	外園委員	○	瀧口委員	○	伊庭委員
○	原口委員	×	嶺 委員	○	國廣委員	○	佐藤委員		

事務局（都市整備部：増野 下水道課：楠、永見、高武、寺嶋、林田、橋本）

傍聴者 なし

1. 開会
2. 議題

（1）報告事項

事務局説明

11月15日から12月14日までの1か月間でパブリック・コメントを実施し、そこでよせられた意見を基に修正した「下水道ビジョン」の説明を行った。また、ビジョンの末尾に、委員名簿を記載して良いかを確認した。

質疑等

【委員】 15ページに記載の「雨水排水区域」は、言葉の並びでいうと「污水处理区域」だが、あえて「公共下水道（污水）」という表現にしているのだろうか。

【事務局】 比較対象が分かるようにするため、こういう表現にしている。

【委員】 「処理場の耐震化対策は耐震改修法など施行時期に合わせて議論し方針を出し順次行うべきものではないのか」というパブリック・コメントに対し、「施設の耐震診断を実施し」と回答しているが、各施設の耐震診断を実施し、耐震計画に基づいてやっているのではなかろうか。

【事務局】 耐震計画に基づき耐震化工事を行ったため、回答について持ち帰って表現を検討する。

○委員名簿を載せる件は承認された。また、パブリック・コメントの回答は事務局に一任す

るということで承認された。

(2) 審議事項

事務局説明

前回説明した「経営戦略」について、2022年の消費者物価指数が発表され、電気代に関しては2021年の増加率0.1%程だったのに対し、2022年の増加率は20%となっており、そういうものを加味して最新情報を反映させ、さらに国の事業を活用し、公認会計アドバイザーの支援等もいただきながら修正した旨説明。その結果、2億円で推移していく予定だった利益は、計画期間中の欠損金は発生しない見通しだが、減少していくこととなったことも説明。

質疑等

【委員】 人件費の数値は据え置きとなっているが、上昇率を高めに見ている他のところで吸収できる計画となっているためこれで良いと思う。

【事務局】 人件費の部分については、アドバイザーに相談をしてみたところ、人員の入れ替わりなどがあり、予測が難しいため、多くの自治体でフラットにしているとのことだった。過去の実績との比較で計算してみたが、やはり人の入れ替えがあり、減っている年もあれば上がっている年もあり、具体的な率を決めかねた。今後も研究していきたい。

【委員】 今年度宗像市では、コロナ禍の生活支援を目的に3か月間の下水道使用料の減免を行ったが、次年度以降も下水道使用料の減免等はあるのか。

【事務局】 国からの補助金を、今回に限って下水道に充ててみたというのが現状である。来年度も国からそういう施策に関する予算が市に投じられるのであれば、市の方針として今度は、皆さまが使うごみ袋代に充てる可能性もあるし、また下水道使用料に充てる話があるならば、私たちが率先して手は挙げたいと考えている。なので、今のところはっきりしたことは言えない。

○経営戦略について、現状の案を基本として進めるが、物価の上昇を受け、下水道使用料を上げないといけない場合は、住民の皆さまに説明できるように審議を行うということで承認された。

3. 答申

○会長から事務局へ、答申として下水道ビジョンと経営戦略が渡された。

4. 部長挨拶

5. その他

事務局

下水道ビジョン等について、庁議で最終案として提案を行い、その後、議会への報告、ホームページ等への掲載を行う。その過程で生じる骨子部分以外の細かい修正等は会長と相談しながら事務局側で進めていくが、大きな変更があった場合は、再度審議会を開催する可能性がある旨説明。

質疑等

特になし。

6. 閉会

—— 完了 ——